

1 単元名 日本の水産業のさかんな地域

2 本単元の目標

- (1) 水産業の生産の工程, 人々の協力関係, 技術の向上, 輸送, 価格や費用などについて, 地図帳や各種の資料で調べて, 必要な情報を集め, 読み取り, 水産業に関わる人々の工夫や努力を理解することができる。 (知識及び技能)
- (2) 水産業の生産の工程, 人々の協力関係, 技術の向上, 輸送, 価格や費用などに着目して, 水産業に関わる人々の工夫や努力について考察し, 資料等を用いて表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- (3) 水産業における食料生産について, 予想や学習計画を立て, 学習を振り返ったり見直したりして, 学習課題を追求し, 解決しようとしている。 (学びに向かう力・人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①: 資料から必要な情報を読み取り, 日本の水産業の特色や課題, 水産業に携わる人々の抱える問題や努力について理解している。	思①: 日本の水産業の特色について, 多角的な視点で資料を比較検討し, 水産業に関わる様々な人々の考えや思いを資料を用いて表現している。	態①: 水産業における食料生産についての学習に意欲的に関わり, 粘り強く問題解決を行い, 学習内容を実生活に活かそうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は, 小学校学習指導要領 第3章 第3節 社会科第5学年の目標, 及び内容(2)ア, イに基づいて設定している。本単元では, 世界有数の水産物消費国である日本において, 水産業に関わる多くの立場の人々が様々な工夫や努力を行っていることについて考えることを通して, 児童に多角的な思考力をもたせることができるようにする。また, その一方で, 我が国の水産業の抱える問題についても理解し, これからの水産業や食料生産について主体的に考えていけるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童観 (第5学年*組**人)

令和*年**月**日 (**人調べ)

単元・題材にかかわる事前調査	
1 私たちが住んでいる日本にはどのような特徴や特色があるでしょうか。	
・社会的事象の意味について, 学習した複数の視点から多角的に説明することができた。	*人
・社会的事象の意味について, 学習した視点を基に説明することができた。	*人
・適切な記述ができなかった。	*人
2 好きな水産物, 寿司ネタアンケート	
①自分の好きな水産物, 寿司ネタを書いてください。	
②その理由が書ける人は書いてみてください。	

本学級の児童は, 社会的事象の意味について説明できた児童は*人であったが, 日本の国語の特徴を根拠にして, 気候の違いや特産物, 習慣, 方言, 食べ物など, 学習した複数の視点を基に説明することができた児童は*人であった。このことから, 本学級の児童は, 社会的事象の意味を理解することが得意である一方で, 社会的な見方・考え方を働かせて社会的事象の特色や意味を捉えながら, 概念等知識を獲得したり, 多角的に考えたりすることに課題があることが分かった。

また, 好きな水産物・寿司ネタアンケートからは, 水産物を日常的に食べる機会がある児童がほとんどで, 自分の気に入っている寿司ネタについて積極的に発表ができていた。本単元では, 実際に地元のスーパーで購入したカツオの刺身を用意することで児童の思考への意欲を高めたい。

(3) 指導観

私たちの家庭の食卓には当たり前のように新鮮な水産物が並んでおり、子どもたちはこれらを何気なく食べている。しかし、この水産物を私たちが食べるまでには、関係する多くの人たちの努力や工夫が重ねられている。本単元では、実際に用意したカツオの刺身から情報を集め、「このカツオの刺身にはどのような思いが込められているのだろうか。」という単元を貫く課題を常に意識させながら問題解決をしていく。漁を行う人々や輸送を行う人々、日本の水産業の現状や課題等について興味を深めて多角的に考えようとする力を高めていきたい。導入である本単元の工夫として、水産業に関わる人々の映像資料を用意し、児童の思考への意欲を高められるようにする。単元を通じた課題解決学習を繰り返し、児童の社会的事象を多角的に考える力を高めていきたい。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1 本 時	<p>目標：我が国の水産業について関心を高め、多角的な視点から単元の学習に取り組もうとしている。</p> <p>1 好きな水産物調べや、実際のカツオの刺身について考える。</p> <p>2 日本の水産業の様子について画像や映像資料等を読み取る活動を通して、分かったことや疑問に感じたことを整理する。</p> <p>3 児童にとって身近な学習課題を設置する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 このカツオの刺身には、どのような思いが込められているのだろうか。</p> </div> <p>4 児童の予想から次時の学習課題を設定する。</p>					<p>◎</p> <p>態①：意欲的に取り組むことができていない児童には、最近食べた水産物や好きな寿司について質問をすることで、活動に参加できるようにする。</p> <p>【観察・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT資料を活用し、日本は魚の消費が多いことや、日本の抱える水産業の課題についても気付かせる。 <p>態①：主体的に日本の水産業について学習に取り組もうとしている。</p> <p>【観察・発表】</p>
2	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 毎日、どれくらいの魚がとれれば、みんなの食卓に行き渡るのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> まきあみ漁の写真やイラストの読み取りを行い、考えたことを記録する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 多くの魚をとるために、様々な漁法が行われている。関わる人の努力で私たちの食卓に魚が行き渡っている。</p> </div>	○		○		<p>知①：資料から必要な情報を集めて読み取り、長崎漁港で行われている沖合漁業について理解している。【観察・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な映像資料を提示し、まきあみ漁のやり方や工夫について調べたり、考えさせたりする。 <p>思①：様々な種類の漁が行われている理由を複数の視点から考えている。</p> <p>【発表】</p>
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 なぜ、土浦のスーパーで長崎の魚を新鮮な状態で販売できるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 写真や映像資料を見て、漁港での工夫や輸送の仕組みについて情報を集める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ とった魚は漁港に運ばれ、せりにかけてられたり、冷蔵輸送したりと、多くの人に関わり迅速に各地域に運ばれている。</p> </div>	○		○		<p>知①：水あげされた魚がどのように消費者に届けられるか理解している。【発表・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料を担任で用意し、漁港での人々の働きについてイメージをもちやすくする。 <p>思①：魚がスーパーに届くまでにどのような人々関わっているか複数の視点から考えている。</p> <p>【ノート・発表】</p>

4	<p>課題 毎日多くの魚を食べて、魚がいなくならないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦での養殖業やうなぎ放流の映像資料を見て、分かったことや考えたことをまとめる。 <p>まとめ 魚のことや環境を考え、つくり育てる漁業がある。生産が安定しており、養殖漁業は増えている。</p>			○	<p>思①:育てる漁業のよいところや課題について考えることで養殖を行う人々の気持ちを想像し、工夫や努力を表現している。【発表・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料からキーワードを書き出して、自分の考えをまとめていくよう助言を行う。
2	<p>5</p> <p>課題 水産加工品を多くに人に食べてもらうために、かまぼこを売り切ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真や映像資料を比較検討し、水産加工品を作る上での工夫について自力解決する。 <p>まとめ 水産物を美味しく食べて欲しいと努力する人々が多くいる。消費者を考えた工夫がある。</p>	◎			<ul style="list-style-type: none"> 手作業も多いことに気付かせ、かまぼこを食べてもらうという人々の願いについて考えさせる。 <p>知①:映像資料やノートにまとめた内容から、水産物を加工してすり身やかまぼこをつくる人々の努力や工夫について理解している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
	<p>6</p> <p>課題 これからも美味しい魚を食べるためにはどうしたらよいのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図やグラフ、これまで調べてきたことを基に日本の水産業の課題について比較検討する。 <p>まとめ 漁業を行う人々の数が減少している。関わる人々に感謝し、魚を今後も積極的に消費することが大切である。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習と関連付けて、漁業で働く人数の変化について考えさせる。 自分が切実に思える課題について、日本の漁業の抱える課題について向き合う。 <p>思①:日本の水産業の課題について調べたことをまとめ、表現している。</p>
3	<p>7</p> <p>課題 カツオの刺身の値段はどのように決まるのだろうか。そして、この刺身にはどのような思いが込められているだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、課題について分かったことや考えたことをまとめる。 <p>まとめ 漁業を行う人々の数が減少している。関わる人々に感謝し、魚を今後も積極的に消費することが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を発表し合い、これからの日本の漁業について考える。 			◎	<ul style="list-style-type: none"> 普段何気ない気持ちで食べている水産物にも、多くの立場の人々が関わっていることに気付かせ、カツオの刺身に込められた思いを探らせる。 <p>思①:水産業に関わる人々の工夫や努力、課題について適切に表現している。</p> <p>【発表・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめを通して、社会的事象を多くの立場から考えることで理解がより深まることに気付かせるようにする。

6 本時の学習

(1) 目標

日本の水産物消費量や水産業に関わる人々などの情報を基に、日本の水産業を調べていくための学習問題を意欲的に考えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点及び評価（評価は◎）
<p>1 事前アンケート(好きな水産物・寿司ネタ)の結果を発表する。</p> <p>2 実際のカツオの刺身の様子から、どのような情報が集められるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに切られている。 ・遠くで捕ったのに新鮮。 ・価格が高い。 <p>3 児童にとって身近な学習問題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何名か指名し、好きな理由を聞いたり紹介したりする活動を行い、児童の水産業に対する関心を高める。 ・学区のスーパー（*****）で実際にカツオを購入した動画を視聴する。児童にとって身近な水産物であることを意識づけられるようにし、資料から読み取れることを自由に考えさせる。 ・カツオの刺身等の実際に用意した教材は、iPad を用いて実物が見やすくなるよう撮影を行い、理解を深められるようにする。 ・日本周辺の水産物の水揚げ量や水産物消費量（供給量）の資料も提示し、我が国の水産物消費量が世界的に見ても多いことを知る。 ・カツオの刺身を見るだけでも多くのことが分かり、多くの人に関わっていることに気付かせる。水産業に関わる人々について明らかにしていくことを児童に確認した上でめあてを確認する。
<p>このカツオの刺身にはどのような思いが込められているのだろうか。</p>	
<p>4 漁師の仕事や学区のスーパーでの工夫の様子の動画を視聴し、これからの授業でどのようなことを調べたら良いか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、新鮮な状態で購入できるのか。 ・値段はどのように決まっているのか。 ・誰がどのように魚を捕っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城の漁師の動画を視聴する。日本の魚の消費が減っていることや、水産業の現状や課題について気付かせる。 ・*****の水産物担当の方の動画を視聴する。水産物が各家庭に届くまでには多くの人の工夫や努力があることに気付かせる。 ・資料から考えたことや予想を発表させ、学級内で考えを深めさせる。
<p>5 児童の考えから次時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚の値段の決め方が知りたい。 ・どれくらいの魚が捕られているのか。 ・学区のスーパーで新鮮な状態で魚が売られているのはなぜだろう。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、毎日どれくらいの魚がとれば、みんなの食卓に行き渡るのかについて考えることを確認する。
<p>6 学区のスーパー「*****」水産物担当の方々からのメッセージの動画を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身近な所にも、水産業に関わっている人々が多くいることを感じさせ、次時への学習に対する意欲を高めさせる。 <p>◎日本の水産物消費量や水産業に関わる人々などの情報を基に、日本の水産業を調べていくための学習問題を意欲的に考えようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）</p>

